

NVC Monthly

寝屋川映像同好会会報

第3号(090807)

発行 竹田幸男

同好会ニュース

8月例会開催

暑いさなかの8月7日、定例の例会を行いました。今月はお盆を避けて第1金曜日の開催です。詳細は例会の窓をごらんください。



例会の窓

平成21年8月例会

日時 平成21年8月7日 13:30～16:30

場所 寝屋川市民活動センター(市民会館4F)子供部屋

出席者 天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹田 竹下 谷 田淵(9名)
療養中だった竹下さんが出席された。

欠席者 竹嶋 (50音別 敬称略)

例会次第(今回の要約 小笠原氏)



1 . 次回の作品発表会日時

- ・ 3月13日(土第1候補)または20日(土)
- ・ 他の行事と重ならない無難な時期として決めた。
- ・ 場所 パナソニック松愛会AVルーム
- ・ 再来年春に寝屋川駅前にホールが完成予定といわれるが今回は間に合わない。今後の候補場所となるか。
- ・ 午前/午後 2回上映

2 . 次回の撮影会

- ・ 岡山のひな祭り<1カ月遅れのひな祭り>
- ・ 4月はじめの土・日(高速代安い)または平日で一泊
- ・ 作品発表会の後に実施することを話し合っただけ。

3 . 会員の当面する問題点報告、質疑応答

- ・ ビデオカメラの故障解決(前月号掲載 梶本)
1.5万円のところメーカーと交渉の結果、有償修理<1万円>で解決。
- ・ 前号の実験レポート「外付けハードディスクを活用する時の問題点と活用」(天野)についての解説と討論。
同じような苦勞をした者もあり議論が深まった 合わせてUSBメモリの取り扱いについても話し合った(USBメモリーが優先的に割り込むためにドライブ符号が変わるという不都合に注意)。
- ・ OSについて話し合った
98 2000 ME XP Vistaと変遷してきたが、Meはエラーが多く Vistaは重い。グラフィックに凝ったり、いろんなソフトが動いているため。 Vistaの採用は慎重に。もう次の「7」がまもなく出る。
- ・ メールについての注意
つきあいの深い会員間は良いとしても範囲の広い人の中では出来るだけ BCCを活用してアドレスが漏れない配慮をしよう。
- ・ 先月号のAVCメモとの関連で、DV、HDV、AVCHDそれぞれの内容についての雑談があった。HDVの規格に見るようにビクターとソニーの映像に対する姿勢の差が鮮明になった。HDVとAVCHDの棲み分けではHDVは業務用と上級アマチュア用が中心となり、一般家庭用はAVCHDにシフトしている。

4. 次回会報の記事

- ・アナログデータ（ビデオテープ、音楽CD等）をデジタルデータに変換する方法を技術レポートとしてまとめる（新井）

5. 作品の映写と検討

（1）「クマゼミの羽化」（3分） 谷さん

- ・長い時間をかけての羽化の要所を上手く押さえて撮影されている。
- ・人には存在しない羽化だけに神聖なものとして感動を覚えた・・・今の心境です（小笠原）

（2）「天の川七夕まつり2009」（9分59秒） 竹田さん

- ・ストーリーを考えて撮影されており、素材が多く編集に自由度があると感じた・・・今の心境です（小笠原）
- ・前月の試作品と比較して別作品とも言えるぐらいの変化。
- ・「声の職人 あかり」を使っのナレーションを随所に活用されている（文章をパソコンが音声変換）
- ・ナレーションの不自然さはほとんど感じられない（不自然な場合は漢字を仮名、別表現に変えるなど工夫した由）

（3）「高松商店街風景＜デジカメ動画＞」（3分） 小笠原さん

- ・ストーリーを工夫した方がよい。店先の人形から始まったが、逆に高松駅から始まり最後は空き店舗風景にするなど。
- ・現地の音声をカットしてBGMだけにしては。騒々しい。
- ・人に見てもらうからには（デジカメの動画編集の試みという）実験だけではなく作品としての工夫が必要。（意見）

6. その他

（1）パナソニック松愛会のホームページに本会報を載せた。＜1・2号 今後順次載せる＞

- ・「パナソニック松愛会 全国の支部 寝屋川支部」に入ってください。

（2）次回例会

- ・9月11日（金） 13時30分～ 映写カメラ担当：竹嶋

実験レポート

アナログ動画をデジタル化して パソコンに取り込み編集記録する方法

新井正直

【目的】

8ミリフィルム・8ミリビデオ・VHSビデオ・テレビ等をアナログ録画したアナログ動画をデジタル化する方法を実験しました。

【パソコンへの取り込み方法】

1. 8ミリフィルムは、映写機で投影し、それをデジタルビデオカメラで撮影し、その出力をパソコンに取り込みます。
2. 8ミリビデオ・VHSビデオ・テレビ等をアナログ録画したもの・録画禁止のDVDは、各々の再生機器で、再生し そのアナログ出力をA/D変換し、パソコンに取り込みます。

デジタルビデオカメラには、A/D変換機能の付いてある機種とない機種があります。

A/D変換機能の付いてある機種は、アナログ信号を入力する端子に入れ、通常に取り込みが可能です。

デジタルビデオカメラに、A/D変換機能の付いてない機種を持っている方は、A/D変換機能付ビデオと同じ機能を持ったハード（プリンストン・テクノロジー（株）製の「デジ造」）が五千円程度で発売されています。但しA/D変換機能付ビデオでパソコンに取り込んだファイルは、AVIで圧縮率の低いファイルですが、この「デジ造」で取り込んだファイルは、MPEGで圧縮率が大きく、動画編集ソフトによっては、編集できない物もあります。この場合は、添付ソフトを使用して下さい。

【機能確認実験】

A/D変換機能付ビデオと同じ機能を持ったハード「デジ造」を購入し、確認しました。購入した「デジ造」は、パソコンとUSB2.0に接続するもので、アナログ出力端子を受ける入力端子は、S-ビデオ端子とコンポジット端子〔RCA〕黄の端子があります。オーディオL/R〔RCA〕赤・白の端子があります。

パソコンには、「デジ造」に対応したドライバソフトをインストールします。

これ以外に編集・DVD作成ソフトも有りますが、我々は、各自が持っている編集ソフト〔超編〕で、対応できます。

動画のキャプチャは、各メーカーの活用ガイドに従って操作して下さい。取り込める画像は、MPEG1〔160*120〕とMPEG2〔720*480〕が有りますが、我々の場合は、MPEG2にして下さい。

取り込むファイルの場所〔ハードディスク〕は、指定できます。

追記 このハードを試したい方には、お貸しします。連絡して下さい。

解説：「A/D変換機能付ビデオと同じ機能を持ったハード・デジ造」は、新井さんの解説にもあるようにアナログデータをMPEG2に変換するので、主目的は編集をしないでアナログ映像（音声）をDVDに仕上げるためのものと考えられ、編集の素材にするはベストではないと思われます。

編集の素材にするためには、少し値段は高いが、アナログデータをAVIファイルに変換できるハードを探して買われるのがよいでしょう。（竹田）

Technical News

Windows 7のここが知りたい

例会でもOSの話題が出ましたが、ウィンドウズのバージョンが変わったとき、今まで使い慣れたアプリケーションソフト（一般にソフトウェアといっているもの）が使えなくなった経験をお持ちでしょう。そのために買い換えなければならなかったことも多いと思います。特にビスタの場合はそういう事例が多発しました。ウィンドウズ7がもうすぐ発売になりますが、この点は少しは改善されるようです。

その方法の一つは、簡単に言えばウィンドウズ7が、アプリケーションソフトに対して、古いウィンドウズのふりをする、ということのようです。これによって、ビスタで使えなかったソフトが使える場合も出てくるだろう、ということですが。

二つめは、ウィンドウズ7の中で、仮想的にウィンドウズXPの環境を作り出すということのようです。特に「Professional」以上にはXPモードがついていると言うことで、「セブン」を買うときにはプロフェッショナル以上を買いたいものです。（日経パソコン2009年8月10日号「Windows7は買いなのか？」より）

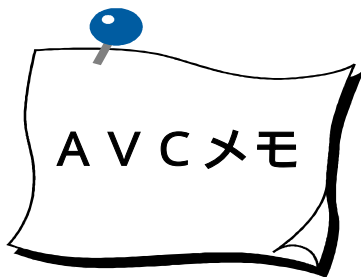
（竹田）

富士通の音声合成ソフト

例会ではA Iソフト研の開発した「声の職人 あかり」の実演をしましたが、たまたま富士通研究所では、まるで人が話しているかのように流ちょうな語り口を再現できる音声合成ソフトを開発した、ということで、国際的な音声評価法でプロのナレーションの8割にあたる品質まで近づけたということです。

そのポイントは、例えば「東京都」と発音する場合、従来は「と」「う」「きょ」「う」「と」と1文字ずつ読み上げるように制御されているため棒読み感が強かったが、新しい方法は「とう」「きょう」「と」と文字をつなげるようにリズムをつけて発音する、ということで、そのためデータベースには、従来の10倍にあたる数万フレーズを収録、音声の波形の違いに着目して登録し、「はしを買う」という場合、「箸」か「橋」かを文脈から判断し、「はし」と「を買う」の波形が連続するように合成音を作る、ということだそうです。声の職人とは、どちらがうのでしょうか。(2009.7.22日経新聞より)

(竹田)



M I C R O M V のこと

竹田幸男

前回、DVについて書いたので、続いて今回はHDV,そして次回はAVCHDについて、と思っていたところ、映像雑誌「ビデオサロン」の旧号を整理していたときに、「MICRO MV (マイクロMV)」という記事に目があり、そうそう、こんな物もあったっけ、ということで、思い出が巻き戻されました。

2001年10月、ソニーが発売した商品で、カセットはDVの30% (容積比) の大きさの3.8mm幅のテープを使用。12MbpsのMPEG2規格で1時間の記録がDVに匹敵する高画質で行える、と謳っています。主目的はネットワークカメラの先駆けであったようです。

テープが小さいので、小型軽量だ、とっていますが、本体重量310gというのは、現在のSDカードカメラが遙かにしのいでいます。なぜこんな物を作ったのか、雑誌記者は、その当時の技術水準から「これからはディスク時代なのに、なぜ」という疑問を投げかけています。結局このフォーマットは2機種でしぼんでしまったようです。

ソニーと言えばデジタル8 (エイト) という傑作 (素晴らしい作品という意味よりも、子供が「ケッサクや」とはやすような意味での) があります。当時

のアナログ式の8ミリビデオのカセットにDV方式と同じデジタルで記録するというもので、2時間テープに1時間記録ができたようです。これはたぶん、当時のDVテープが高価だったので(8ミリの3倍くらいしたという)、安く上げたいという思惑があったようですが、8ミリテープの値段は下がり、一方どんどん下がるDVは今や100円台後半で手に入る時代となりました。完全な読み違い。当然今はデジタルエイトのカメラはありません。

フォーマット戦争と言えど誰でも知っているビクター・松下のVHS対ソニーのベータの戦い、そして次はPanasonic・ソニー連合のブルーレイ対東芝HD DVDの戦い。ソフト業界や消費者を巻き込んで、どこかで大きな犠牲を払いながら続けられてきました。

私たちの在職時代でもそれぞれの職場で新しいフォーマットの試みがされていたものと思います。あれを作ればよかった。あれを出さなければよかった。悔悟の積み重ね。本当に消費者の心をつかみ、財布を開けさせられるか、単に技術だけでは決まらない何かがあるように思います。 ■